

浜頓別町立浜頓別小学校

学校いじめ防止基本方針



令和8年1月改訂版

<目 次>

はじめに

第1章 いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

1	いじめの防止等の対策に関する基本理念	1
2	いじめの理解	2
	(1) いじめの定義	
	(2) いじめの内容	
	(3) いじめの要因	
	(4) いじめの解消の定義	
	(5) いじめの重大事態	

第2章 学校が実施するいじめ防止等の取組

1	本校のいじめの実情及び目標（指標）	4
2	児童が主体となった取組の推進	4
3	学校いじめ対策組織の設置	5
4	いじめ防止の取組	6
5	いじめの兆候の早期発見と積極的な認知	7
	資料①「いじめ発見・見守りチェックリスト」	8
6	いじめへの対処	9
7	いじめの解消	10
	資料②「早期発見・事案対処マニュアル」	11
8	いじめの重大事態への対応	12
9	いじめの防止等に関係する機関，保護者等との連携	12
10	インターネットを通じて行われるいじめへの対処，保護者との連携	12
	資料③「相談窓口一覧」	13

はじめに

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがある**人権侵害行為**です。

本校では、これまでも、いじめはどの子どもにも、どの学級・学年でも起こりうるものであることを十分認識の上、教職員間の連携を密にしながら、その防止と対処に努めてきました。そして、「いじめは、どのような状況であろうと、決して許されない行為だ」ということを子どもたちに継続して指導してきました。

いじめの問題は、人間関係のもつれ等に起因しているため、児童や教職員、保護者等がよりよい関係をどう築いていくかということを学校経営の基軸に据え、家庭や地域と連携し、学校を取り巻く全ての人の心が通い合う教育の充実を図ることが大切です。

そのため、本校においては、「いじめ防止対策推進法」「**北海道いじめの防止等に関する条例**」「**浜頓別町いじめ防止基本方針**」に基づき、「学校いじめ防止基本方針」を策定するとともに、いじめ防止対策推進委員会を設置し、いじめの防止に向けた取組の充実と適切で迅速な対処に努めます。

第1章 いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

1 いじめの防止等の対策に関する基本理念

いじめは、全ての児童に関係する問題です。いじめの防止等の対策は、全ての児童が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨として行わなければなりません。

また、全ての児童がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがないよう、いじめの防止等の対策は、いじめが、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童が十分に理解できるようにすることを旨としなければなりません。

加えて、いじめの防止等の対策は、いじめを受けた児童の生命・心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、学校、市、教育委員会、家庭、地域住民その他の関係者の連携の下、いじめの問題を克服することを目指して行わなければなりません。

2 いじめの理解

(1) いじめの定義

「いじめ防止対策推進法」（以下「法」といいます。）では、いじめを次のように定義しています。いじめに当たるか否かの判断は表面的・形式的に行うのではなく、いじめを受けた児童や周辺の状況を踏まえ、法の定義の下に判断し、対処します。

また、法の対象となるいじめに該当するか否かを判断するに当たり、「心身の苦痛を感じているもの」の要件を限定して解釈することがないよういじめを受けたとされる児童の立場に立つて行うよう努めます。

第2条 この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

2 この法律において「学校」とは、学校教育法第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（幼稚部を除く。）をいう。

3 この法律において「児童等」とは、学校に在籍する児童又は生徒をいう。

4 この法律において「保護者」とは、親権を行う者（親権を行う者のないときは、未成年後見人）をいう。

(2) いじめの内容

具体的ないじめの態様としては、次のようなものがあります。

- 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- 仲間はずれ、集団による無視をされる。
- 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- 金品をたかられる。
- 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
- パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。 など

(3) いじめの要因

いじめの要因を考えるに当たっては、次の点に留意します。

- いじめの芽は、どの児童にも生じ得る。
- いじめは、単に児童だけの問題ではなく、大人の振る舞いを反映した問題でもあり、家庭環境や対人関係など、多様な背景から、様々な場面で起こり得る。
- いじめは、加害と被害という二者関係だけでなく、観衆の存在、傍観者の存在や、所属集団の閉鎖性等の問題により、潜在化したり深刻化したりする。
- 児童一人一人を大切にされた授業づくりや集団づくりが十分でなければ、学習や人間関係での問題が過度なストレスとなり、いじめが起こり得る。
- 児童の発達の段階に応じた、人権に関する正しい理解、自他を尊重する態度、自己有用感や自己肯定感の育成を図る取組が十分でなければ、互いの違いを認め合い、支え合うことができず、いじめが起こり得る。

(4) いじめの解消

いじめが解消している状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要があります。ただし、必要に応じ、いじめを受けた児童といじめを行った児童との関係修復状況など他の事情も勘案して判断するものとします。

ア いじめに係る行為が止んでいること

いじめを受けた児童に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が相当の期間継続していること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とする。

イ いじめを受けた児童が心身の苦痛を感じていないこと

いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、いじめを受けた児童がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。いじめを受けた児童本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。

(5) いじめの重大事態

重大事態とは、法第28条第1項により次のとおり規定されています。

ア いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき

イ いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき

第2章 学校が実施するいじめの防止等の取組

1 本校のいじめの実情

本校のいじめの認知件数は7件（令和7年6月に実施した「いじめの把握のためのアンケート調査」において確認できたもの）です。互いの嫌がらせがもとになっていたり、双方が加害者と被害者の要素を含んでいる案件が確認されています。しかし、「いじめはどんなことがあっても許されない」と回答した児童の割合は約92%、「そう思わない」・「よく分からない」と回答した児童の割合は約8%となっています。本校のいじめ防止に向けた組織的な取組を通して、「いじめの把握のためのアンケート調査」において「いじめはどんなことがあっても許されない」と回答する児童の割合を100%にするよう努める必要があります。

また、「嫌な思いをしたとき、誰に相談しますか」の問いに「誰にも相談しない」と回答した児童は約10%います。本校のいじめ防止に向けた組織的な取組を通して、児童が相談できる体制を整えます。

2 児童が主体となった取組の推進

本校で行われる学級活動や児童会活動等において、児童同士がいじめの問題を自分のこととして捉え、考え、議論することにより、いじめに正面から向き合い、いじめの防止等に主体的に取り組む活動を推進します。

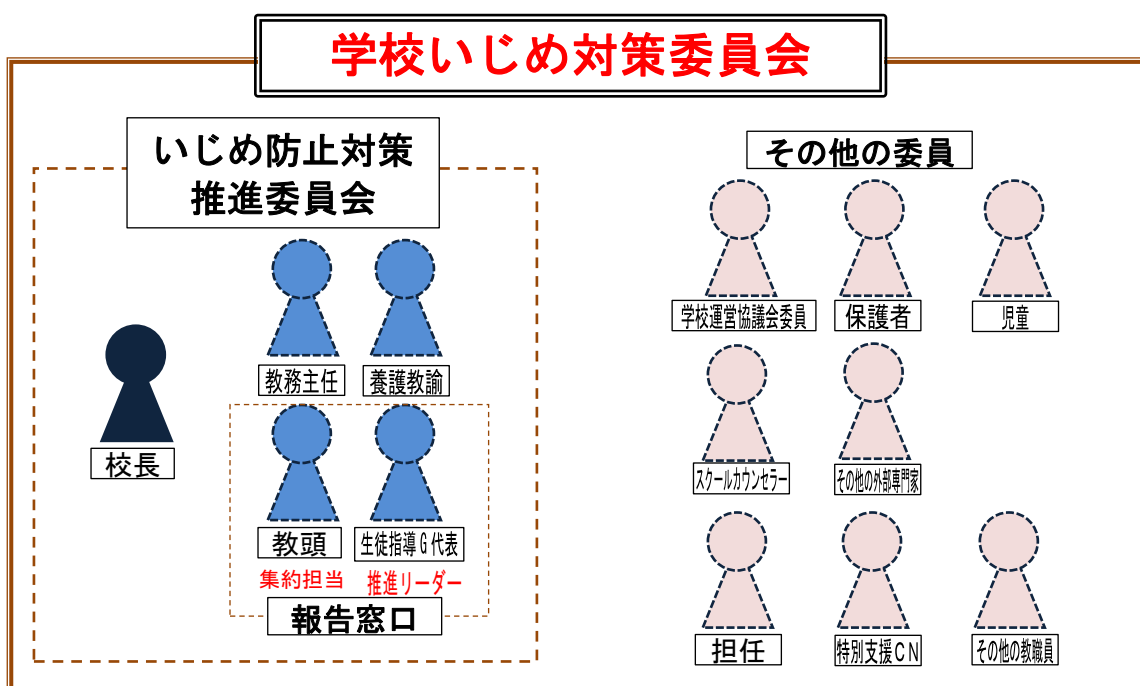
【主な取組】

- ・児童がいじめの問題を自分のこととして捉え、考え、議論することにより、いじめに正面から向き合い、いじめの防止等に主体的に取り組む活動を推進します。
- ・「いじめ・非行防止強調月間」において、児童会活動の一環として、浜頓別小学校「いじめなくそう宣言」を作成し、朝会の場で全校児童に示し、全児童の共通理解を図り、いじめ防止に向けた意識を育てます。

3 学校いじめ対策委員会の設置

本校においては、学校いじめ対策組織として「いじめ防止対策推進委員会」を組織し、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめや非行、不登校を未然に防ぐ対策を講じるとともに、いじめが発生したときに組織的に迅速に対応できるようにします。

(1) 学校いじめ対策組織の構成



(2) 学校いじめ対策組織の役割

浜頓別小学校いじめ防止基本方針に基づき、学校における生活や行動面及び対人関係等から、いじめや非行、不登校等を未然に防止するとともに、このような状態が憂慮される児童について協議し、対策を講じる組織です。

<具体的役割>

- ① いじめや非行、生徒指導上の問題行動等の情報の収集や記録
- ② いじめ認知の判断
 - *必要に応じて、関係機関の指導を仰ぐ
- ③ 認知されたいじめへの、対処プランの策定と事案への対処
- ④ いじめに関する校内研修の実施
- ⑤ PDCAサイクルによる学校いじめ防止基本方針の見直し
- ⑥ 学校いじめ対策組織会議の内容の記録・保管

4 いじめ防止の取組

(1) いじめについての共通理解

- いじめの態様や特質，原因・背景，具体的な指導上の留意点について，職員会議や校内研修において周知し，教職員全員の共通理解を図る。
- いじめの未然防止に向けた授業を行うなど，児童にとって理解しやすい取組を進める。

(2) いじめに向かわない態度・能力の育成

- 教育活動全体を通じた道德教育の充実，読書活動・体験活動などの推進により児童の社会性を育む取組を進める。
- 児童の発達段階や実態に応じた人権教育の充実により，多様性を理解するとともに，自分の存在と他者の存在を等しく認め，互いの人格を尊重する態度を醸成する取組を進める。
- 幅広い社会体験，生活体験の機会を設け，他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を養う取組を進める。
- 人権教育プログラムの実施

(3) いじめが生まれる背景と指導上の注意

- いじめの加害の背景には，人間関係のストレスをはじめ，学習の状況等が関わっていることを踏まえ，授業についていけない焦りや劣等感がストレスにならないよう，一人一人を大切にしたり分かりやすい授業づくりに努める。
- 教職員の不適切な認識や言動が，児童を傷つけたり，他の児童によるいじめを助長したりすることのないよう，指導の在り方に細心の注意を払う。

(4) 自己有用感や自己肯定感を育む指導の充実

- 教育活動全体を通じ，児童が活躍でき，他者の役に立っていると実感することができる機会を全ての児童に提供し，児童の自己有用感を高めるよう努める。
- 自己肯定感が高まるよう，困難な状況を乗り越えるような体験の機会を設けるなどの工夫に努める。
- 自己有用感や自己肯定感，社会性などは，発達段階に応じて身に付いていくものであることを踏まえ，小・中学校間で連携した取組を進める。

5 いじめの兆候の早期発見と積極的な認知

学校は、いじめが大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけ合いを装って行われたりするなど、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることがある。そのことを十分に認識し、たとえ、ささいな兆候であっても、早い段階から複数の教職員で的確に関わり、いじめを軽視することなく、いじめ防止対策推進委員会で積極的に認知し、その後の対応につなげます。

学校は、いじめの早期発見のため、次の取組を進めます。

- (1) 日常の観察やふれあい活動、定期的なアンケート調査、チェックシートの活用、教育相談の実施などにより、いじめの早期発見に努めるとともに、児童が日頃から相談しやすい雰囲気づくりに努める。
- (2) 保護者との個人面談の実施（5月，12月）
- (3) 児童及び保護者に保健室（養護教諭）やスクールカウンセラーとの相談の利用や関係機関等の電話相談窓口について周知し、いじめについて相談しやすい体制を整備する。
- (4) 相談支援センター等の電話相談窓口紹介カードの全児童への配付
- (5) 学校いじめ防止基本方針の周知

※資料として、「いじめ発見・見守りチェックリスト」を掲載。

【資料①】

いじめ発見・見守りチェックリスト

年 組 記入者 【記入日 月 日】

次の項目に該当する児童がいる場合は、横に名前を記載してください。

	児童氏名
<input type="checkbox"/> 遅刻・欠席・早退が増えた。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 保健室などで過ごす時間が増えた。又は、すぐに保健室に行きたがる。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 用もないのに職員室や保健室の付近でよく見かける。又は訪問する。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 教職員のそばにいたがる。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 登校時に、体の不調を訴える。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 休み時間に一人で過ごすことが多い。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 交友関係が変わった。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 他の子の持ち物を持たされたり、使い走りをさせられたりする。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 表情が暗く（さえず）、元気がない。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 視線をそらし、合わそうとしない。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 衣服の汚れや傷み等が見られる。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 持ち物や掲示物等にいたずらされたり、落書きされたり、隠されたりする。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 体に擦り傷やあざができていることがある。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> けがをしている理由を曖昧にする。……………	〔 〕

	児童氏名
<input type="checkbox"/> 教室にいつも遅れて入ってくる。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 学習意欲が減退したり、忘れ物が増えたりしている。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 発言したり、褒められたりすると冷やかしゃからかいがある。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> グループ編成の際に、所属グループが決まらず孤立する。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> グループを編成すると机を離されたり避けられたりする。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 食事の量が減ったり、食べなかったりする。……………	〔 〕

	児童氏名
<input type="checkbox"/> 清掃時間に一人だけ離れて掃除している。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> ゴミ捨てなど、人の嫌がる仕事をいつもしている。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 一人で下校することが多い。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 一人で後片付けをしている。……………	〔 〕
<input type="checkbox"/> 放課後の話題を避ける。……………	〔 〕

6 いじめへの対処

本校は、いじめを発見又は通報を受けた場合、特定の教員で抱え込まず、直ちに校内で情報を共有し、組織的に対応します。

(1) いじめの発見・通報を受けたときの対応

- 遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、その行為を止めさせます。
- いじめを受けた児童やいじめを知らせた児童の安全を確保します。
- 児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときは、直ちに警察等関係機関と連携し、適切な援助を求めます。

(2) いじめを受けた児童及びその保護者への支援

- いじめを受けた児童から、事実関係の確認を迅速に行い、当該保護者に伝えます。
- いじめを受けた児童の見守りを行い、いじめを受けた児童の安全を確保します。
- 必要に応じて、スクールカウンセラーなど外部専門家の協力を得て対応します。

(3) いじめを行った児童への指導及び保護者への助言

- いじめを行ったとされる児童からも事実関係の聴取を行い、いじめがあったことが確認された場合、いじめを止めさせ、その再発を防止します。
- いじめを行った児童が抱える問題など、いじめの背景にも目を向け、健全な人格の発達に向けた指導を行います。
- 事実関係の確認後、当該保護者に連絡し、以後の対応を適切に行えるよう保護者の協力を求めるとともに、継続的な助言を行います。

(4) いじめが起きた集団への働きかけ

- いじめを傍観していた児童に、自分の問題として捉えさせ、いじめを止めさせることはできない場合でも、誰かに知らせる勇気をもつよう伝えます。
- 学級全体で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという意識を深めます。

(5) 性に関わる事案への対応

- 他の事案と同様に、学校いじめ対策組織において、組織的にいじめであるか否かの判断を行うとともに、児童のプライバシーに配慮した対応を行います。
- 事案の対処に当たっては、管理職や関係教職員、養護教諭等によるチームを編成し、児童に対して同性の教職員や話しやすい教職員が対応するなど、適切な役割分担を行います。
- 事案に応じて、スクールカウンセラーを含めたチームで対応するとともに、医療機

関や警察等の関係機関との連携を図ります。

- ・チーム内のみで詳細な情報を共有し、情報管理の徹底に努めます。

(6) 関係児童が複数の学校に在籍する事案への対応

- ・学校間で対応の方針や具体的な指導方法等に差異が生じないように、教育委員会が窓口となり、各学校との緊密な連携の下、対応への指導・助言を行うとともに、学校相互間の連携協力を促します。

7 いじめの解消

本校では、単に謝罪をもって安易にいじめが解消されたと判断するのではなく、少なくとも、いじめに係る行為が止んでいる状態が相当期間継続していることや、その時点でいじめを受けた児童が心身の苦痛を感じていないことを本人及びその保護者に対し、面談等により確認します。

本校では、いじめの解消に向け、次の取組を進めます。

- (1) 本校は、いじめが解消に至っていない段階では、いじめを受けた児童を徹底的に守り通し、その安全・安心を確保します。
- (2) 本校は、いじめが解消した状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、当該児童について、日常的に注意深く観察します。

※本校の5～7の一連の対応について、資料②「早期発見・事案対処マニュアル」の形で次ページに掲載します。

【資料②】

早期発見・事案対処マニュアル

【いじめの把握・報告】

<いじめの把握>

- いじめを受けた児童や保護者
- 学級担任→集約→校長・教頭
- 児童アンケート調査や教育相談
- 学校以外の関係機関や地域住民
- 周囲の児童や保護者
- 養護教諭等学級担任以外の教職員
- スクールカウンセラー（SC）
- その他

<いじめの報告>

- 把握者 → 報告窓口 → 集約担当 → 校長・教頭

いじめ対策組織会議の開催

【事実確認及び指導方針等の決定（いじめ対策組織会議）】

- 事実関係の把握
- 「いじめ対処プラン」の作成（指導方針、指導方法、役割分担等の決定）
- 全教職員による共通理解
- いじめ認知の判断
- SCや関係機関等との連携の検討

【いじめ対策組織による対処】

- いじめを受けた児童及び保護者への支援
- 周囲の児童への指導
- 関係機関（教育委員会、警察、子ども総合相談センター）との連携
- いじめを行った児童及び保護者への指導・助言
- SCなどによる心のケア

いじめを受けた児童

- 組織体制を整え、いじめを止めさせ、安全の確保及び再発を防止し、徹底して守り通す。
- いじめの解消の要件に基づき、対策組織で継続して注視するとともに、自尊感情を高める等、心のケアと支援に努める。
- 家庭訪問等により、その日のうちに迅速に事実関係を説明する。
- 今後の指導の方針及び具体的な手立て、対処の取組について説明する。

学
校

家
庭

いじめを行った児童

- いじめは、他者の人権を侵す行為であり、絶対に許されない行為であることを自覚させるなど、謝罪の気持ちを醸成させる。
- 不満やストレスを克服する力を身に付けさせるなど、いじめに向かうことのないよう支援する。
- 迅速に事実関係を説明し、家庭における指導を要請する。
- 保護者と連携して以後の対応を適切に行えるよう協力を求めるとともに、継続的な助言を行う。

周囲の児童

- いじめを傍観したり、はやし立てたりする行為は許されないことや、発見したら周囲の大人に知らせることの大切さに気付かせる。
- 自分の問題として捉え、いじめをなくすため、よりよい学級や集団をつくることの大切さを自覚させる。
- いじめを受けた児童及び保護者の意向を確認し、教育的配慮のもと、個人情報に留意しながら、必要に応じて今後の対応等について協力を求める。

- いじめ対策組織におけるいじめの解消の判断

【再発防止に向けた取組】

- 原因の詳細な分析
 - 事実の整理、指導方針の再確認
 - スクールカウンセラーなど外部の専門家等の活用

- 学校体制の改善・充実
 - 指導体制の点検・改善
 - 教育相談体制の強化
 - 児童理解研修や事例研究等、実践的な校内研修の実施

- 教育内容及び指導方法の改善・充実
 - 児童の居場所づくり、絆づくりなど、学年・学級経営の一層の充実
 - 道徳教育の充実等、児童の豊かな心を育てる指導の工夫
 - 分かる授業の展開や認め励まし伸ばす指導、自己有用感を高める指導など、授業改善の取組

- 家庭、地域との連携強化
 - 教育方針やいじめ防止の取組等の情報提供や教育活動の積極的な公開
 - 学校評価を通じた学校運営協議会等によるいじめの問題の取組状況や達成状況の評価
 - 児童のPTA活動や地域行事への積極的な参加による豊かな心の醸成

8 いじめの重大事態への対応

学校は、いじめの重大事態が発生した場合、国の「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」に沿って速やかに対処します。

- (1) 学校は、重大事態が発生した場合、速やかに教育委員会に報告する。
- (2) 教育委員会が、学校を調査の主体とすると判断した場合、既存の学校いじめ対策組織に当該重大事態の性質に応じた適切な専門家を加えた組織において、調査等を実施する。
- (3) 重大事態に至る要因となったいじめについて、事実関係を可能な限り明確にする。
- (4) 調査の進捗状況等及び調査結果は、いじめを受けた児童生徒及びその保護者に対し、適時、適切な方法で情報を提供する。

9 いじめの防止等に関する機関、保護者等との連携

学校は、関係機関や保護者、地域等と連携して、いじめの防止等に関する取組を実施します。

- (1) 学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画（学校いじめ防止プログラム）の作成・実施・検証・修正に当たっては、保護者や児童生徒の代表、地域住民などの参画を得て進めるよう努めます。
- (2) いじめへの対処に当たっては、必要に応じて、学校いじめ対策組織に、スクールカウンセラー、町担当部署、警察等、外部専門家を加えて対応します。

10 インターネットを通じて行われるいじめへの対処、保護者との連携

本校は、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、効果的に対処できるよう、情報モラル教育の充実と啓発に努めます。

- (1) 日常的、計画的に情報モラル教育を進め、保護者に対して啓発を行います。
- (2) 学校ネットパトロールを計画的に実施し、早期発見に努めます。
- (3) 不適切な書き込みを発見した場合は、保護者との協力、連携の下に速やかに削除を求めるなどの措置を講じるとともに、必要に応じて、関係機関に適切な援助を求めます。

【資料③】

相談窓口一覧

主な相談窓口（北海道）① 小学生・小学部生用（令和7年4月）

名称	所管等	電話番号	受付	概要
子ども相談支援センター (24時間子供SOSダイヤル) (メール相談)	北海道教育委員会 (文部科学省)	0120-3882-56 (0120-0-78310) sodan-center@hokkaido-c.ed.jp	毎日24時間対応	いじめ、不登校、友人関係、親子関係、性的マイノリティ、性暴力の被害、家庭の事情で自分の時間がとれない、ヤングケアラーに関する事など、様々な悩みを相談できます。
児童相談所虐待対応ダイヤル	北海道保健福祉部 (厚生労働省)	189 (いちはやく)	毎日24時間対応	虐待の疑いがあるなど、虐待に関する悩みを児童相談所に通告・相談できます。
親子のための相談LINE	北海道保健福祉部 (こども家庭庁)		平日9:00～17:00	いじめ、不登校、ヤングケアラー、虐待など様々な家族・家庭の相談ができます。
北海道いのちの電話	社会福祉法人 北海道いのちの電話	011-231-4343	毎日24時間対応	様々な悩みを相談できます。
こどもの人権110番	法務省	0120-007-110	平日8:30～17:15	いじめ・体罰等について、法務局職員・人権擁護委員に相談できます。
チャイルドライン	認定NPO法人 チャイルドライン ほっかいどう	0120-99-7777	毎日16:00～21:00 (12/29～1/3除く)	18歳までの子どもが電話・チャットで様々な悩みについて相談できます。

主な相談窓口（北海道）② 小学生・小学部生用

名称	所管等	電話番号	受付	概要
少年サポートセンター 「少年相談110番」	北海道警察	0120-677-110	平日8:45～17:30	いじめ・犯罪等の被害に悩む子どもやその家族が警察に相談できます。
こころの電話相談	北海道立精神保健福祉センター	0570-064-556	平日9:00～21:00 土日祝10:00～16:00	様々な悩みを相談できます。
北海道こころの健康SNS 相談窓口	北海道保健福祉部		平日、土曜日、祝日 18:00～22:00 日曜日 18:00～翌朝6:00	日常生活や学校生活に関する悩みを相談できます。
性暴力被害者支援センター 北海道 (SACRACH さくらこ)	北海道、札幌市	050-3786-0799 または #8891 sacrach20191101@leaf.ocn.ne.jp	平日10:00～20:00 (土日祝日、12/29～ 1/3除く)	子どもや大人が性暴力の被害について相談できます。
北海道ヤングケアラー相談 サポートセンター	北海道保健福祉部	0120-516-086 (電話) hokkaido.young.carer2022@gmail.com 080-9612-1247 (SMS専用) facebook.com/hokkaido.young.support (Facebook) @youngcarer2022 (X 旧:Twitter)	開設時間 平日 8:45～17:30	ヤングケアラーに関する相談ができます。